

2020年度 講義概要

授業科目名	眼・視覚系
担当教員名	教授 大路正人ほか
配当学年 等	医学部医学科3年
学習目標	眼・視覚系の構造と機能を理解し、眼・視覚系疾患の症候、病態、診断と治療を理解する。眼科疾患に用いられる眼科検査機、特に眼科分野で開発された多くの画像診断装置を理解し、眼科疾患の診断法を理解する。次に、眼科疾患に対する外科的、内科的治療法を理解する。眼科での外科的治療の重要性を理解するとともに、外科的治療としての最新の眼科マイクロサージェリーを理解する。そして、視機能の改善という、現代社会に不可欠なQuality of Lifeの向上に、眼科が重要な役割を果たしていることを理解する。
授業概要	まず、眼科臨床を理解する上で重要な眼球の各部位の解剖、生理について講義を行う。その後、視力・視野・屈折・眼位・眼球運動など視機能に関する諸検査の目的、具体的方法とその評価法について解説する。各論として、角結膜・ぶどう膜・網膜・硝子体・視神経・水晶体・緑内障・斜視・眼科救急などに関する疾患について、その病態と診断法、その評価に必要な各検査装置についての講義を行う。また、各疾患ごとの治療法として、内科的、外科的療法について解説する。まず、内科的治療では従来の薬物療法とともに近年開発されている眼科独自の薬物療法を解説する。また、外科的治療では著しい進歩を遂げている手術用顕微鏡下での最新の眼科マイクロサージェリーや眼科レーザー治療など、手技とともに使用する機器も示し、眼科領域での様々な手術法について講義する。

授業内容

年月日(曜)	時限	担当教員	項目	内容	授業形式 (ZOOM,WebClass等)
2020年11月12日(木曜日)	1時限	澤田修	解剖・発生	眼球、眼附属器の解剖と発生	対面
2020年11月12日(木曜日)	2時限	澤田修	眼科機能検査	視野、フリッカー、網膜電図など	対面
2020年11月12日(木曜日)	3時限	西信良嗣	眼瞼、眼症候	眼瞼疾患、眼症候名	対面
2020年11月12日(木曜日)	4時限	西信良嗣	ぶどう膜、強膜	ぶどう膜腫瘍、ぶどう膜炎、強膜疾患	対面
2020年11月12日(木曜日)	5時限	南川貴之	緑内障	緑内障の病態と評価と治療	対面
2020年11月13日(金曜日)	1時限	山出新一	色覚	色覚異常	対面
2020年11月13日(金曜日)	2時限	柿木雅志	全身疾患と眼	眼異常を伴う全身疾患	対面
2020年11月13日(金曜日)	3時限	岩佐真紀	白内障	水晶体疾患	対面
2020年11月16日(月曜日)	1時限	柿木雅志	網膜	網膜剥離、網膜変性	対面
2020年11月16日(月曜日)	2時限	澤田智子	眼科救急疾患	眼科救急疾患の診断と治療	対面
2020年11月16日(月曜日)	3時限	一山悠介	屈折、調節	屈折異常、調節障害	対面
2020年11月17日(火曜日)	1時限	澤田修	眼科画像検査法	細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、超音波画像診断、光干渉断層検査など	対面
2020年11月18日(水曜日)	1時限	大路正人	網膜	網膜の解剖と機能	対面
2020年11月18日(水曜日)	2時限	大路正人	網膜	黄斑疾患	対面
2020年11月18日(水曜日)	3時限	大路正人	網膜	糖尿病網膜症、高血圧眼底	対面
2020年11月18日(水曜日)	4時限	佐々木香る	角膜、結膜、涙器	角膜、結膜、涙管疾患、涙道障害	対面

2020年11月19日(木曜日)	1時限	森崇正	神経眼科	視神経疾患、瞳孔異常	対面
2020年11月19日(木曜日)	2時限	村木早苗	斜視、両眼視機能	斜視、眼球運動、両眼視	対面
2020年11月19日(木曜日)	3時限	森崇正	神経眼科	眼球運動障害、眼窩疾患	対面
2020年12月21日(月曜日)	4時限		試験		対面
授業形式・ 視聴覚機器の利用	講義は項目別にZOOMで行い、視覚器の解剖、生理、病態、検査法、診断法、治療法、最新の研究への理解を深めてもらう。				
評価方法	学習目標の達成を定期試験で評価し、60%以上の得点の獲得、卒業試験は70%以上の得点の獲得が必要である。また、臨床実習は、病歴（病状の把握）、身体診察、コミュニケーション能力、臨床判断、プロフェッショナリズム、マネジメント、総合臨床能力で評価し、実習での態度、レポート、口頭試問も評価の項目とする。				
教科書・ 参考文献	中澤満 編集、村上 晶 編集、園田康平 編集：標準眼科学（医学書院）				
学生への メッセージ	<p>視覚は感覚機能の中の80～90%と大きなウェイトを占め、目まぐるしく変化する情報化社会の中で、視覚での高度な情報処理能力は不可欠である。また、本邦でも本格的な高齢化社会を迎え、健全な視覚の維持の重要性も高まっている。このため、年齢を問わず、視覚は年齢を問わず、Quality of Lifeにとっても最も重要な感覚機能である。そして、視覚障害を予防、治療し、良好な視覚の維持に貢献することが眼科医の使命である。また、診断用の生体顕微鏡および生体の光学系を通して、無侵襲で細胞レベルでの病態観察ができることは眼科診療の大きな魅力である。そして、眼科は眼病変に対し、内科的にも外科的にも診療できる幅広い方法論を有する専門科であり、眼科医は眼に特化した究極のエキスパートである。眼科医のみが可能な眼球内のマイクロサージェリーの魅力を学んでほしい。また、全身疾患からの眼合併症の増加により、他科との連携はさらに重要となり、眼科学全般に占める役割は依然として高い。</p> <p>学生諸君が、Quality of Lifeの一翼を担う「眼科学」に大いに興味を持つことを期待している。</p>				